



TITLE:

海王星を見る人のために

AUTHOR(S):

CITATION:

海王星を見る人のために. 天界 1927, 8(82): 13-14

ISSUE DATE:

1927-12-25

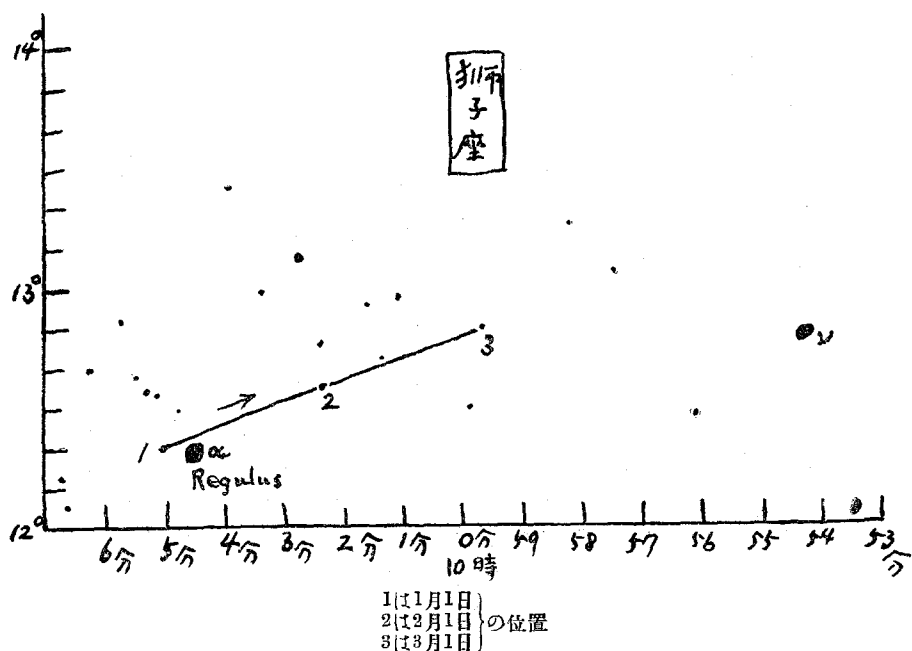
URL:

<http://hdl.handle.net/2433/161223>

RIGHT:

海王星を見る人のために

此の頃は、海王星が獅子座にあつて、此の星座の首星レグルス(Regulus)のごく近傍を往復してゐるから、微光の海王星を容易に見ることが出来る。去る10月27日には海王星が、順行の途中、レグルス星の北方僅々 $1'24''$ といふ所を、西から東に通り返したが、更に来る1928年1月9日には、海王星が同じレグルス星の北方 $3'50''$ の所を、逆行の途上、東から西へ過ぎ行く。だから、肉眼でも見へるかの輝かしいレグルス星をたよりとし、其れに望遠鏡をむけ、それからこゝにある星圖を見くらべながら探す、海王星は1928年一月中旬ごろは極めて見付け易い。1月1日には午後9時頃、月末ならば7時頃、このあたりの天空は東の地平線から昇つて来るから、時刻の方も好都合である。只、寒い季節なので一般の人々には一寸御氣の毒であるが、珍しいものを見るのだから、少しは御しんほうあれ！ 1928年の8月19日には又々海王星が順行して、レグルスの北方 $7'$ ほどの所を通過す



るが、其の頃は太陽が之れに近いため、観望は殆んど不可能である。

海王星は我が太陽系統中の最遠距離の遊星であつて、一月の頃は、我が地球からの距離約4500000000キロ(1115000000里)、光線でさへも之れには4時間と10分を費す距離である。實體は吾が地球の直徑の4倍もある星であるけれど、遠距離のため、視直徑は僅か2."5にしか見えない。

光輝は7等級半であつて、肉眼には絶対に見えない。それで近世に至るまで此の海王星は誰にも知られなかつたものである。しかるに、今を去る81年前、フランスの天文學者ルベリエ(Leverrier)が、天王星の運行の不規則な事から考へて、或る未知星の存在を假想し、純粹な數學論理によつて其の位置を推定し、ベルリン天文臺のガレ(Galle)が此の推定値を使用して、果して此の星を發見したものである。〔數學者が見つけた星〕として、海王星の名は天文學史に香しい。

海王星は、勿論、太陽の引力によつて、殆んど圓形に近い楕圓軌道を畫いてゐる遊星であつて、其の一年は我が地球の164年に至る。故に此の海王星は、人類に發見されてから、未だ其の軌道の半周をも巡つてゐないわけである。

海王星には衛星が一つだけ知られてゐる。1846年10月に英國のラッセル(W. Lassell)が發見したものであつて、光輝は13等級半、軌道の傾斜が大きくて、殆んど逆まわりに近い。此の衛星の直徑は3600キロであつて、殆んど我が月と同じである。海王星の周圍をめぐるのに凡そ5日21時間を費してゐる。

~~~~~ グリニツチ標準時を毎日二回放送

【ロンドン十二月十七日發聯合】イギリス・ラケビ1無線電信局内郵便局より毎日二回宛グリニツチ標準時間を世界各國に向つて放送することになった、即ち午前十時、午後六時の二回で、各五分前より信號を開始し、午前正十時と午後正六時に至つて信號を終るもので、その放送に用ひる波長は18740メートルである。開始の上は學者、測量家、航海中の各船舶等にとつて特に有益であらう。

【備考】グリニツチ標準時間午前十時は日本時間午後七時、同午後六時は翌日午前三時である。